

# 市町村合併に関する 説明会を開催しました

## 市長による全体説明

自立した都市を  
目指す市町村合併

私は昨年の三月に、市町村合併について「合併特例法の期限をにらみながら政令指定都市に向けた研究を進める」と表明しました。その後、市議会の議決を経て「新潟地域合併問題協議会」に参加し、十三市町村で協議を重ねてきました。そこでの協議内容や合併に関する情報については、これまで二十七回にわたって



市では市町村合併に関して、十一月十四日に市内の公共的団体への説明会を、十八日から二十四日まで、市内六会場で市民説明会を開催しました。

説明会では、任意の合併協議会での協議結果や合併のメリット・デメリットなどを、市長や担当者が説明することも、参加した皆さんとの質疑応答などを行いました。

広報で皆さんにお知らせしたところでは、

このいわゆる任意の協議会での協議が九月二十九日に終了したことから、資料を配付して説明会を開催し、二十歳以上全員の合併に関するアンケート調査を行うこととしました。

今までの行政は、中央集権的な流れで行われてきましたが、経費の無駄遣いの見直しや「地域のことは地域で」という考え方を国が示しました。地方自らがより積極的に行政に取り組むことが、そこに住む住民の幸せにつながるという理念から、その手段として市町村合併が有効であるということとです。国も地方も、今膨大な借金を抱えています。これを解決するには、行政のスリム化とともに、地方の問題を自分たちで解決していくことが求められ

ています。地域のつながりという観点では、新津市を含む十三市町村を見ても、通勤や通学、通院などで新潟市まで三十分もかからずに行ける、また多くの人が行っているという現実があります。

### 新津の将来を 展望した判断を

次に新津市の現状についてお話しします。市の平成十五年度予算は前年度比でマイナスとなりました。これには交付税や補助金の削減なども影響しています

が、財源が不足する中でも、必要な事業は多くあります。七百鈔の里山は無秩序に開発されると、保水機能の喪失など大きな影響をもたらすことから、近隣も含めた住民の宝として保存・活用したいと思っています。

バイオリサーチパーク構想については、薬科大学近くに研究施設を集積した「バイオバレー」として振興を図ります。また阿賀野川の水辺を交流拠点として整備する計画や文化会館、総合体育館、総合福祉会館、新

津駅東口広場の整備、さらには学校や道路、河川といった社会資本の整備が控えています。

これらの投資的な事業を現在の財政状況で行うことは困難であり、合併によって実現したいと考えています。具体的には合併建設計画に登載し、合併特例法による特例債という財源を活用します。しかし平成十七年三月までに合併が実現しないと、この財源は利用できません。

合併すれば、行政サービスにおける「痛み」もありませんが、良くなる点もまたあります。任意の協議会で検討してきた二百二十七の事務事業のうち、合併によって良くなる項目が百ほど、サービス水準が低くなるものが数項目ありますので、配付した資料などを見て判断し、アンケートへ積極的に参加してもらいたいと思います。

この市長による説明は、十一月十四日の公共的団体への説明会でお話ししたものの概要です。